

水戸教育事務所だより第4号は、事務所の職員2人が学校に勤務していた時の経験談を紹介いたします。先生方に対する筆者のメッセージを読み取っていただければありがたいと願っています。



## 「先生って、人によって対応が違いますよね。 何でですか？」

若かりし頃、ある中学校に3年担任として赴任した4月。1校時が始まる前、私が教室の事務机のところに座っていると、クラスの男子1名が寄ってきて、突然私に投げかけてきた一言。

「ん？」と一拍おいて、「当然だろ！一人一人違うんだから対応が違うのは当たり前だよ。」と私も一言で返した。

すると、その生徒は「ふ～ん、わかりました。」とだけ言って自分の席に戻っていった。

その後、慌ただしく日々が過ぎていく中、この出来事があったことも忘れてしまっていた4月下旬、この生徒宅を年度初めの家庭訪問で伺った。懇談の中で母親が次のような家庭での親子の会話の様子を伝えてくれた。

子：「今度の先生、信用できるよ！」

母：「どうしてそう思ったの？」

子：「先生に『先生って、人によって対応が違いますよね。何でですか？』って聞いたら、一人一人違うんだから当たり前だよ、ってすぐ答えが返ってきた。これまでの先生ならそんなことないよと言って終わるんだけど、本当に予想外だった。」

母：「そうなんだ。よかったね。」



と本人が嬉しそうに話をしていたとのこと。

突然の話で、家庭訪問の時はこの出来事をすぐに思い出せなかったが、初対面の母親が笑顔で話をしてくれたことを今でも鮮明に覚えている。

「一人一人の実態をしっかりとかんがえて、それぞれ子供に応じた対応をする！」その当時、自分の中で一番の核とした教育信念。その教育信念が目の前の子供に伝わったこの事実。そして、その子供の話を聞いて支援をしてくれる家庭。当時、日々様々な問題が頻発する中、この自分の思い、自分を理解してくれる人がいたというこの事実が、その様々な課題を乗り越えていく上で自分の中で支えとなり、課題対応への大きな原動力になった。

その後も学校現場で、たくさんの課題に対し、子供・保護者・地域、そして同僚等に支えてもらいながら何とか30数年。今改めて「先生」という職で頑張ることができたことを誇りに思い、多くの方々に感謝をしたい。(by H・T)

## 『学級の子供を教室で迎えよう』と言われたが・・・

かつて、昭和の頃の新採時代。「あなたの出勤時刻は何時にすべきですか。」と、先輩から聞かれたことを思い出す。即答できずにいると、「あなたのクラスでは誰が一番に登校してくるのか分かっていますか。」と、さらなる質問を投げかけられた。

私は、「たぶん、〇〇さんだと思います。」と答えると、その先輩は、「じゃあ、明日誰が学級に一番先に来るのか確認してみたら」と言ってくれた。先輩が言いたかったのは、「教室で子供（児童・生徒）を迎えることが、学級経営の基本である」ということだったのだと、後になって理解できた。

しかし、『働き方改革』により、月の残業時間を45時間以内に収めることが求められている今、学級担任の先生方は子供との関係づくりにさらなる工夫が求められている。時間を自分でコントロールする能力も必要とされてしまった。(by O・M)

風通し  
よければ育つ  
報・連・相

